



森ノ宮柔整卒後研修会

(語り手) 柔道整復学科2期 伊黒浩二 / (聞き手) 鍼灸学科23期 小島賢久

1 設立の経緯を教えてください

医療人は一生勉強といいますが柔道整復師も例外ではありません。柔道整復師として実際の医療現場で活躍し、現代医療の一端を担う為には技術と知識のどちらも日々研鑽しなければなりませんし、最新の医療情報についても敏感に収集していく必要があります。国家試験合格がゴールではなく、そこが柔道整復師としてのすべてのスタートです。卒業後臨床の現場に出てからこそ勉強、最新医療情報の収集、そして情報交換が必要だと考えていました。

本校の柔道整復学科の歴史はまだ浅く、2期生である私達が卒業する時点では卒業生同士が共に勉強し情報を共有しあえる場は確立されていませんでした。

勉強することについては一人でも可能ですが、それぞれが臨床経験と研究で得た知識や医療情報を収集し、それを交換し共有していくためには、そういった意識を持った卒業生が集まれる場が必要であると感じて、卒後研修会は平成16年3月に現会長の富岡宏行さんを中心として設立され、この3月でようやく1年が経過しようとしています。

2 活動内容について教えてください

主に次のような内容です。

・研究発表 ・症例検討 ・外部講師による講演会

研究発表や症例検討というと堅苦しくなってしまいますが、要するに会員それぞれが得意としている分野について発表したり、実際にあった症例を紹介したり、自分では判断のつかない症例について皆で検討したりするといった内容です。

これまでの1年間の具体的な活動は、以下の通りです。

- 第1回 3/27 「肩関節障害に対するアプローチ」川畑浩久
 第2回 5/8 「膝関節OA」川畑浩久
 「踵骨骨折・咳による頸肩こり・腰痛についての症例検討」
 富岡宏行
 第3回 6/12 「電気治療について」伊黒浩二
 「腰椎分離すべり症における一症例」根来章
 第4回 7/24 「外反母指について」穂園裕策
 第5回 8/21 「膝関節OAについて」
 第6回 10/23 「骨盤の診かた」荒瀬正人
 第7回 11/13 「学生スポーツ選手に対するInformed Consent」
 保坂昌孝
 第8回 1/15 「筋損傷について」川畑浩久
 「骨折に対する治療方法の検討」伊黒浩二

難しいことをするのではなく、自分達が興味のあることについて話すことが大切だと思っています。実際にやってみると、人に説明して理解を得ることは思った以上に難しく、また予想もしていないような質問が飛んでくるなど、発表する為の下準備は結構大変です。私も何度か経験させて頂いて、大変ではありましたが、自分の知識をさらに深めることができ、良い勉強になったと思っています。

3 「外部講師の講演」についてはどのような内容で開催されているのですか

初年度は本校教員の川畑浩久先生やその他の非常勤講師の先生に「膝関節OA」「肩関節障害に対するアプローチ」「筋損傷について」などをお願いしました。会員の反応は非常に良く、来年度もまた様々な分野、内容で開催していきますが、現時点で考えている内容としては「医療訴訟について」「栄養学について」「スポーツ傷害について」などです。会員同士の情報交換も大切なのですが、外部の先生から柔道整復の分野はもちろん、それ以外の分野に関しても、より専門的で高度な知識を得ることが大切であると考えて、年間で2、3回は開催したいと考えています。



4 会員数は現在どれくらいですか

1期生昼間部1名、2期生昼間部24名、2期生夜間部8名、計33名です。

より多くの知識や情報を共有化するためにも、今後は卒業生や既卒者の方で会の存続意義をご理解いただける方であれば積極的に参加していただきたいと考えています。

会への参加は卒業生であれば基本的に自由で、年会費3,000円、一回の参加費が1,000円になります。(平成17年度)

5 今後の活動内容について聞かせてください

今後の活動の柱は大きく2つあります。

まず1つめは会を継続させることです。そのために活動の内容を大幅に変更することなく、初年度に準じて行いたいと考えています。月に1回、第2か第3土曜日の17:30~19:30 本校6階にて開催します。(日時は変更する場合があります)

次回、第9回の開催予定は

- ・テーマ:「レントゲンと整骨院 ~柔整師としてどう捉えるか~」
- ・日 時:平成17年3月19日(土) 17:30~19:30
- ・会 場:本校6階教室 参加希望される方はご連絡ください。

2つめは本研修会で研究を行ない形に残すことです。まだ始めたばかりなのですが、会員の協力を得てそれぞれが持っている骨折症例を収集し、その治療方法について分析を行っています。それを論文という形で示し、骨折における柔道整復師の役割、保存療法の限界などについて我々なりにSuggestionするとともに、森ノ宮医療学園柔道整復学科卒業生の外傷への対応の質が高いことを明示できればと考えています。

お問い合わせ

森ノ宮医療学園専門学校 教務部 柔道整復学科 伊黒浩二